



湯水ではたくさん水を使う施設などに給水車で水を届けた
(写真提供:ヴェオリア・ジェネッツ)

この冬、いくつかの町で、使える水が少なくなる「湯水」が起こりました。最近夏に多くの豪雨災害が起こっているのに、水が無くならないのは信じられないかもしれません。ダムに貯めておける水には限りがあるので、どの季節でも長い間雨がふらないと湯水は起こります。豪雨災害が多くなったのは気候変動が原因だと言われています。地球が暖かくなると、海水や地表の水の温度も上がって、雨のもとになる水の蒸発の量が多くなり、雨がたくさんふる原因の一つになります。じつは、温暖化は豪雨だけでなく、湯水の原因にもなりま

す。一度にふる雨の量が増えながらも、雨がふる日が減ってしまふ恐れがあるのです。雨がふらない日が続けば湯水が起こります。そして、温暖化は、冬にふる雪の量にもえいきよします。最近、たくさん雪が積もる年と、積もらない年の差が大きくなっています。雪が多く積もる年は山の雪どけとともに、春に使える水の量が増えますが、積もらなければ、使える水が少なくなります。春は、稲作など農業に水をたくさん使う季節です。どの季節でも温暖化によって湯水が引き起こされる可能性が高まっています。今年の冬に千葉県南房総市

日本にせまる水危機

全国で湯水 なぜ起こる？

で起こった湯水は、約2か月間まとまった雨がふらなかったことが大きな原因になりました。新型コロナウイルスが流行しているのに、手洗いやうがいのためにも水が使えなくなると大変です。南房総市では、はなれた川から水がなくなりそうなたまに水を運んだり、水をたくさん使う施設には近くの町から水道水を運んだりして、水が使えなくなることから守りました。



南房総市の湯水でははなれた川からダムに水を補充した

水に恵まれない日本

実は

全国どこでも蛇口の水がそのまま飲める、川や海で泳ぐことができる、緑豊かな自然、美味しい食べ物。日本に住んでいるとさまざまな水の恵みを受けて「水がたくさんあるのでは」と感じる人が多いです。本当は、日本は決して水に恵まれた国ではありません。世界各地の1年間でふる雨の量の平均は1065ミリです。これに対して日本は1668ミリで、世界平均の約1.6倍の雨がふっています。この数字を見るとやはり水に恵まれた国だと思ってしまう。

でも、恵まれていないと言え理由は大まかに三つあります。一つ目は日本の人口です。日本の人口は1億2575万人(令和2年9月現在)です。世界には196の国(日本が認めている国の数)がありますが、日本はその中で10番目に人口が多い国です。ふった雨を多くの人で分け合うことになります。二つ目の理由は、日本の地形です。日本は世界の国に比べて、平らな場所が少なく山が多い国です。そのため、ふった雨は早いスピードで海に流れ出てしまいます。

そして三つ目の理由は、国の面積です。日本の広さは世界で61番目です。面積が広ければ、それだけたくさんの方が地面にふり、貯めて使うことができます。日本は面積は人口の多さに対して決して広くはありません。つまり、日本では小さい面積にたくさんの方が住んでいます。そして、雨がふってもすぐに海に流れ出てしまうため、貯めておくのが難しく、一人が使える水は限られているということです。雨の量、人口、雨がふる面積から計算すると、世界では1年間に一人当たり約2万トンの雨がふっています。しかし、日本では1年間に一人当たりふる雨は約5000トンのみで、世界平均の4分の1です。国や自治体では今あるダムの水を貯める量を増やしたり、地域間で水をやりとりできる水路を作ったりと湯水を防ぐ努力をしています。温暖化が進めば、湯水の可能性はもっと高まります。もちろん日本全国が同じ状況ではありません。地域によって、湯水の起こりやすさは違います。みんなの住んでいる町の水はどこから来ているか、湯水の備えはどうなっているか、調べてみましょう。